

1) 人口 (③通勤・通学の流入・流出)

- ◆流入人口、流出人口ともに増加傾向にある
- ◆平成12(2000)年以降、流入人口が上回っており、平成27(2015)年には、流入人口46,283人に対し、流出人口は36,736人であり、約1万人の流入超過となっている

○流入人口の推移



○流出人口の推移



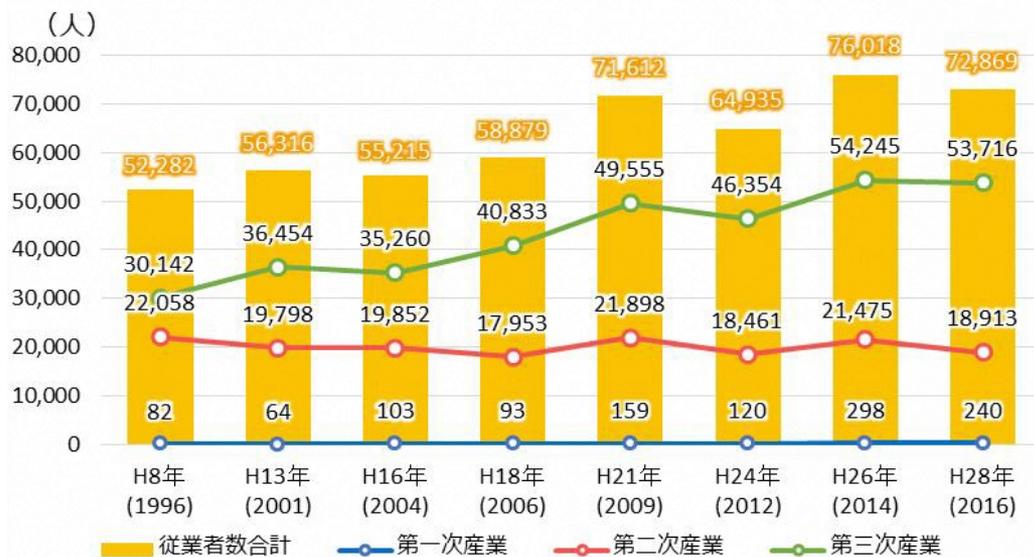
平成6年 立命館大学びわこ・くさつキャンパス開学

※国勢調査

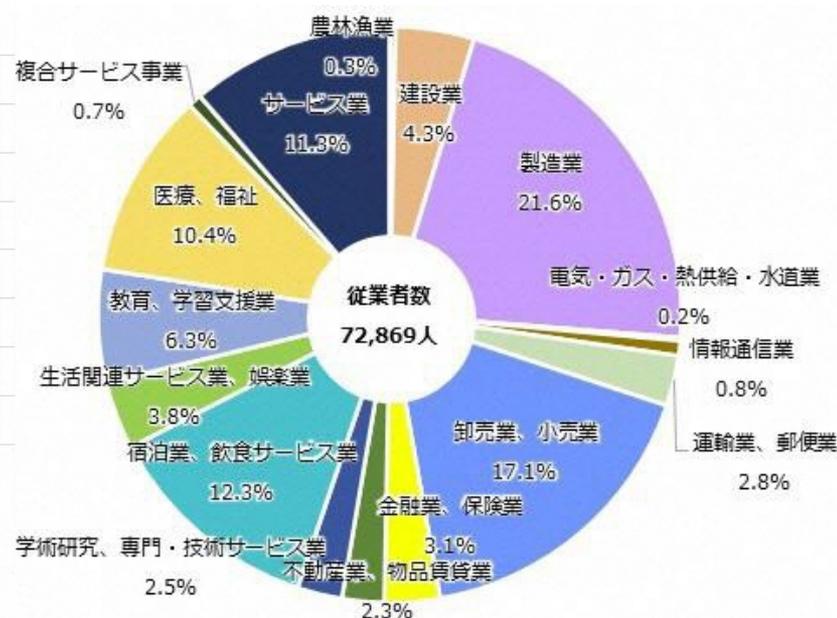
5) 産業

- ◆市内の従業者数は、第一次および第二次産業が概ね横ばいで推移しているのに対し、**第三次産業が増加傾向**
- ◆事業者数の業種別構成比は、**第二次産業の製造業が最も多く21.6%、次いで第三次産業の卸売業、小売業が17.1%、飲食サービス業が12.3%**

○従業者数の推移



○従業者数の構成比（平成28（2016）年）



※事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査、経済センサス活動調査

(参考) 草津市の特性

⑤行政運営

- 市民一人当たりの公共施設等に係る費用は全国平均よりは優れていますが、近隣3市よりもわずかに低い状況です。
- 平成25年から27年での開発許可面積について、市街化調整区域に対する市街化区域の比率が、全国平均及び近隣3市よりも低く、郊外部での開発傾向が強いことが伺えます。

⑥エネルギー・低炭素

- 自動車CO2排出量が全国平均よりも低く、環境への負荷が低い状況が伺えます。

①生活利便性

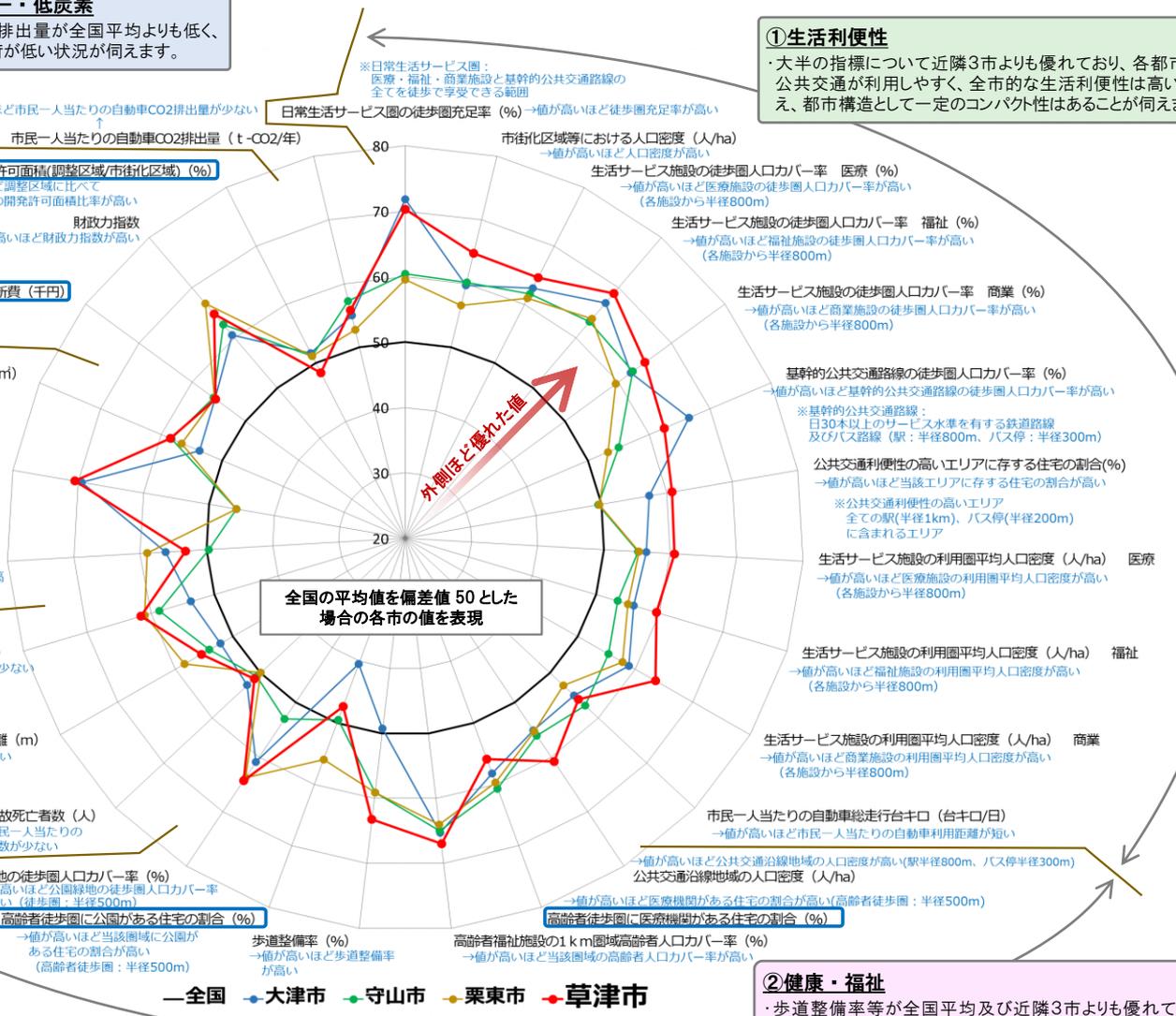
- 大半の指標について近隣3市よりも優れており、各都市機能や公共交通が利用しやすく、全市的な生活利便性は高いことが言え、都市構造として一定のコンパクト性はあることが伺えます。

④地域経済

- 小売商業床面積当たりの売上高や小売商業床効率は、全国平均及び近隣3市より優れた状況であり、収益性の高い商業施設が立地していることが伺えます。

③安全・安心

- 空き家率は全国平均及び近隣3市より優れており、最寄りの緊急避難所までの平均距離は、栗東市よりは劣っているものの、全国平均よりは高い値となっています。
- 市民一人あたりの交通事故死者数は、全国平均をわずかに上回っています。



2) 土地利用

(②土地利用現況)

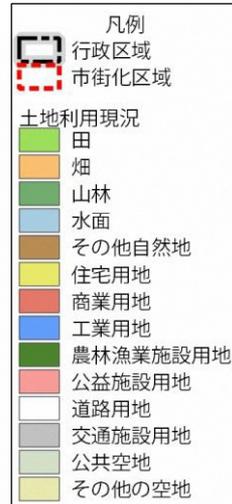
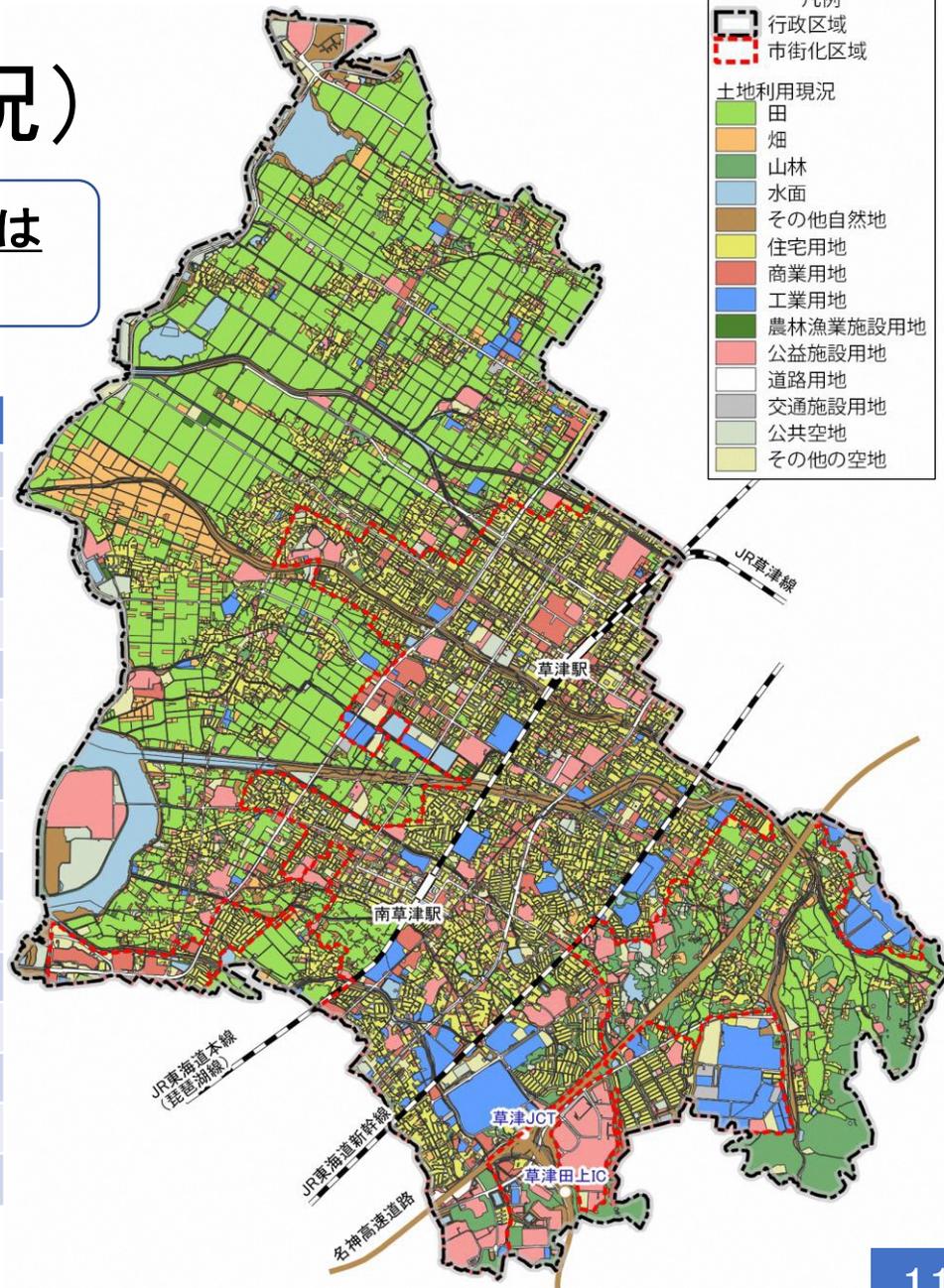
○土地利用現況図

◆草津市の都市的土地利用の面積は
2,692ha (エリア全体の54.1%)

○土地利用の割合

	面積	割合
田	1,272ha	25.6%
畑	205ha	4.1%
山林	253ha	5.1%
水面	245ha	4.9%
その他自然地	305ha	6.1%
住宅用地	942ha	18.9%
商業用地	218ha	4.4%
工業用地	223ha	4.5%
農林漁業施設用地	21ha	0.4%
公益施設用地	301ha	6.1%
道路用地	619ha	12.5%
交通施設用地	52ha	1.1%
公共空地	113ha	2.3%
その他空地	202ha	4.1%
草津市計	4,971ha	100.0%

都市的土地利用



※都市計画基礎調査 (平成30年)、GISによる集計